

# 2023「ことばの森教室」第1回優秀作品紹介

<小学校5年生>作文課題「お手伝いしたり働いたりして、感じたことや考えたこと」

## 5-① 「ぼくのスクランブルエッグ」

「〇〇、これどうやって作ったの？」と料理上手の2番目の姉が言った。その時ぼくは、初めて作ったのを作り方を聞かれるなんて、とてもうれしかった。でも、母と一緒に作ったから、まだあまりわからなかった。次に作る時は、必ず答えると思った。

ぼくが料理を手伝ったきっかけは、初めて作った料理を「上手」とほめられたからだ。毎日7人家族のご飯の支度を、母は忙しそうにしている。だから、朝に料理でお手伝いしたくて、初めてスクランブルエッグを作った。そして2番目の姉に「おいしい」と言われたので、もっとお手伝いをして少しでも母を楽にさせて上げたかった。フワフワとしたスクランブルエッグの作り方は、まず最初に卵を割り、あまり混ぜずにフライパンに入れたら、少し固まるまで動かさない。あまりはしていじったり動かしたりしないと、フワフワとしたスクランブルエッグができると母が教えてくれた。作り方を2番目の姉に言うと、妹も作り始めた。そうしたら、母も祖母も喜んでいた。

母や祖母が、毎日ご飯の支度をするのは大変そう。それなのに、母や祖母は普通にやっている。ぼくはすごいと思った。スクランブルエッグを作るだけで大変なぼくは、毎朝お手伝いして、ぼくの料理も上手になったら一石二鳥だ。家族も喜んでくれたら、もっとうれしくなる。だからぼくもスクランブルエッグを上手に作れるようになったら、他の料理も上手に作れるようになりたいと思う。

## 5-② 「楽しいお手伝い」

ある日、お母さんが体調をくずした。だから、私がおふろ洗いをしようと思った。なぜかというと、お母さんが早く元気になってほしいからだ。おふろ洗いは、普段お母さんがやっているが、楽しそうだと思い、やろうと思った。

まず、湯船をお湯で流した。流している時はとてもワクワクした。ワクワクし過ぎて、たくさん流してしまった。

そして、お待ちかねのおふろ洗いタイムだ。一番樂しみな所で、一番時間をかけて洗わないといけない。ワクワクときんちようで心臓が出そうだった。今までお母さんと一緒にやったけれど、一人でやるのは初めてだ。よけいにきんちょうした。湯船に入って洗ったら、ズボンがびしょびしょになった。けれど、気にせず楽しくやっていた。気がついたら十分やっていた。お母さんに、「もういいよ。」と言われたので止めたけれど、言われなかつたらずっとやっていたかもしれない。それほど楽しかった。

お手伝いをして感じたことは、楽しいということだ。今までずっと、お手伝いはめんどくさくてさけてきた。けれど、このことを通して積極的にやろうと思った。お手伝いは、された側もうれしくなるし、した側も気持ちよくなる。これからも、続けていこうと思った。

## 5-③ 「お手伝いしたり働いたりして、感じたことや考えたこと」

お手伝いとは何だろうと考えた時に、私はお母さんやお父さんの仕事を自分ができる範囲で助けることだと思います。例えばお母さんが料理をしている時に、野菜を切ったりお皿に盛りつけたりすることは、私にもできる仕事です。お父さんからおふろそうじを頼まれているので、洗い残しのないようにていねいにそうじをしていますが、これも私にできる仕事だと思っています。

お手伝いをすることで、私も家族の一員として役に立てていると思えます。たまにはめんどうくさいと感じることもあるけれども、いやがらずにがんばろうと思います。そして、お手伝いした時には「ありがとう」と言ってもらえて気持ちがよいです。

お手伝いをすることで、良かったことは料理が上手になったことです。私の作った玉子焼きは、みんなに「おいしい」と言ってもらえて、自信が持てるようになりました。でも私は、家の仕事のほんの少ししか手伝えていません。毎日、お母さんやお父さんは、当たり前のように家の事をしていてすごいと思いました。

お手伝いをしたり、働いたりすることは簡単なことばかりではなくて、大変なこともありますが、人の役に立てるように、できる範囲でがんばろうと思います。人に言われなくとも、自分から進んでできる人になりたいと思いました。

#### 5-④ 「たくさんのがんばり」

私は、1年生になって初めてお手伝いをしました。初めてお手伝いをした時、火はこわいし、食べ物をつかむさいばしは長くて、料理に関しては全く上手くいきませんでした。

でも、あきらめずに長いはしを上手に使えるように練習をしました。こつは、お母さんとおばあちゃんに聞いて、こっそり練習をしていました。そして、2週間くらい経って料理するをお手伝いしたら、「さいばし使うの上手だね。」と言われて、うれしくてたまりませんでした。あまりにもうれしすぎて、ずっとお手伝いをし続けました。それも、おふろそうじも玄関そうじも、階段そうじもしっかり取り組みました。

ある日、料理を手伝ってから、包丁を使って1週間が経った頃、包丁で手を切ってしまい、痛い思いをしました。だから料理を手伝いたくても、手伝えないようになってしまいました。でも、1週間後に、やっと料理のお手伝いができました。私は、料理のお手伝いができた良かったと思い、ほっとしました。

私はこういうようなお手伝いをして、色々な経験を積めました。これからも家族みんなの役に立てるように、お手伝いをし続けたいです。

#### 5-⑤ 「つぎはやろう」

「はあー。」なんでやらなきゃいけないの。お母さんに手伝いを頼まれた。いつも断ってしまう。何でだろう。やらなきゃという気持ちはあるのに、どうしても断ってしまう。私は手伝いが出来ないわけでもないし、やりたくないわけでもない。ただ、めんどうくさいという気持ちがあふれてきて、やりたくないくなる。楽しい手伝い、好きな手伝いはすぐやるのに、自分がやりたくない手伝いはしない。きっとお母さんは、「手伝ってくれてもいいじゃない。」と思っている。

お母さんは、いつもご飯を作ってくれるし、洗濯もしてくれる。私がやっている手伝いは皿洗い、洗濯物干し、たまに新聞を取ってくるだけ。友達はもっとしているのだろう。

私は決めた。次はやろう。お母さんに頼まれた手伝い。今度は「えー。」と思っても、しっかりやりたい。そして、たまにしていなかった新聞取りも、しっかりしたい。これは自分が決めたこと。決めたんだから、しっかりやらなきゃいけない。そして、お母さんだけでなく、みんなから頼まれたこと、そして、先生に頼まれたこと、それから友達に任されたことを、堂々として「いいよ。」って言ってあげたい。そして、みんなが困らなくて「ありがとう。」って言ってもらいたい。これからは自分から進んでやっていきたい。

#### 5-⑥ 「今まで出来なかつた家事」

私は今日、母が今までどんなに大変な仕事をやっていたのか知った。私は最近まで、家事が全く

出来なかった。こんな私に家事ができるのだろうか。そんな思いが急にわいてきた。

今日も私はテレビを観ながらくつろいでいた。だが、母はいつものようにいそがしそうに動き回っている。そんな母に、私は聞いてみた。「大丈夫？」そしたら、母は手伝ってというような顔で私を見た。何をしたらよいか分からず、聞いてみた。母に買い物をたのめた。3000円でカレーの具材を買う。

最近は物価が上がって、普段200円で買える物が230円になったりで、今まで簡単に計算できていたのに、出来なかつたりで、本当に家事がいやになつた。

私には難しいことを、いつも当たり前のようにやっているなんてすごい、なんていやにならないの、と疑問に思った。私は母に、「家事はとても大変だけど、家族を思えば痛くもかゆくもないよ。だから〇〇も、家事好きになるといいね。」そういわれて驚いた。家族みんなを思ってやれば、楽しく思えるだろうか。

その日の夜、私は皿洗いを家族を思いながらやってみた。そしたら、なんだか家事が楽しく思えた。なんだろう。このぽわぽわした気持ち。また明日も家事がやりたい。家事の楽しさを、この経験で分かった気がした。

## <小学校6年生> 作文課題「今一番がんばっていること」

### 6-① 「がんばるって何だっ」

「がんばるって何だっ」今回の題にある「今一番がんばっていること」と言われても、「がんばる」ってなんなんだよと思う。だから「めんどくさいな」と思った。ぼくは、何事にも考えるくせがある。だけど苦手なことやきらいなことなどでは、いつもより長く考え込んでしまう。だからはっきり言って、ことばの森はきらいだ。しかも今回の「がんばる」の意味もよく分からない。

そこで、「がんばる」を国語辞典で調べてみることにした。すると、「①がまんしてやりぬく。②自分の考えを言い張って通そうとする。③ある場所から動かない。」と書かれていた。今のぼくにとって、「がんばっていること」とは何だろう。学校では児童会長をしているが、がまんしてやりぬいたり、自分の考えを言い張ったりしたことはない。ぼくは作文を書けるほどのことはしていない。

考え続けていたら、一つ思ったことがあった。それは、今一番がんばっていることをさがすことだ。具体的には、今一番がんばっていることを見つけることを、一番がんばるべきなんだということ。がんばっていることがなかつたら、がんばることを作らなきゃいけないなと思った。とりあえず、来週の土曜日に家では田植えがある。いつもは、田んぼの近くの川で、魚や蟹やザリガニばかり取ってしまうけれど、今回は魚などを取ることはしないで、田植えをがまんしてみようと思っている。そうすれば、ぼくの「がんばる」を見つけられそうだ。

### 6-② 「今一番がんばっていること」

今一番がんばっていることはバスケだ。キャプテンになってから、もっとがんばるようになった。一番最初は責任と期待が、ものすごくいやでいやでしかたがなかった。ある日、同じ6年から、「無理しなくてもいいよ」と言われ、とてもうれしかった。お母さんやお父さんからも言われ、どんどん気持ちが楽になつていった。

そして試合をする時には、不安が少しあった。試合を続けながらも、段々とあせってあせって試合に負けた。自分のせいだと思いながらも家に帰った。そしてまた試合をすることになり、また段々と緊張してきた。その時、「あんまり緊張するな。」と弟に声をかけられた。そのおかげか段々気持ちが楽になり、最後には緊張はなくなっていた。そして、その時、みんなは誰のせいで負けただとかは、あまり気にしていないのが分かった。そして、試合はじめのブザーが鳴り、ぼくは全力でやりとげた。そして試合に勝った。

「よっしゃー！」思わず口から出た。そして、これからもバスケをがんばろうと思った。

### 6-③

### 「私の支えがあつてこそ」

「学校のことが出来ないならやめてしまえ」とお母さんに言われた。私は、「時間がなくてやりきれなかつた。」と言い返したかった。習い事を始めた時、お母さんと「宿題を終わらせてから行くこと」と約束した。始めた頃の私は、習い事に行くことで精一杯だった。それでも私は、月曜日から土曜日まで習い事を続けた。それは、たくさんの将来の夢に向かってがんばっている10才上の姉と同じようにがんばっていきたかったからだ。

何一つやめることなく習い事を続けている。自分で計画を立て、時間を使いこなす努力をしているからだ。最近では、時間が余るようになってきた。そして、やりきれていない分は、時間を無駄にせず、どうしたらいいか自分で考えることが出来るようになった。そして、余裕を持って約束が守れるようになってきた。6年生になり、学校での活動が忙しくなり、たくさん仕事も増えると思うので、継続していきたい。

私は、今年の児童会の役員にもなった。放課後も短く、前より忙しい。学校のことや宿題をやる時間も短くなつて、大変になつてしまうと思う。今より友達と協力し、楽しく仕事が出来ている。大変な仕事であつても、学校を良くしたいと思っている。そんな気持ちがある私は、あることに気づいた。それは達成感、充実感だ。がんばっているからこそ味わえるこの気持ちをにぎりしめ、学校や習い事をがんばっていきたい。

### 6-④

### 「野球とぼく」

「終わった…。」ぼくはマウンドから動けなかつた。3年の秋に、スポーツ少年団で野球を始めた。でも、5年の冬に部員が9人そろわなくなり、野球が続けられないかもしれない状況になつた。しかし、監督達が新チームを立ち上げてくれ、ぼくは野球を続けることができた。初めは新しいチームに移籍することが不安だったが、すぐに仲良くなれ、ぼくたちは「仲間」になつた。

ぼくには夢があった。「高円宮賜杯全日本学童軟式野球大会」に出場することだ。この大会は、「小学生の甲子園」と言われている大きな大会だ。県代表になり、全国大会に出場するため、土日は丸一日、平日はナイター練習をしてきた。ぼくが学童にチャレンジできるのは、今年で最後。だからこそ、今年は絶対勝ちたかった。でも2点追いつかなかつた…。「ぼくのピッ칭で2失点していなければ。」「ぼくがあの時に打ていれば。」マウンドの上で、自分を責めていた。

試合後のミーティングでは、負けたことに対して怒られると思っていた。でも監督は、「気持ちを切り替えて、次の山日に向けてがんばつていこう。次は勝つぞ。」と言ってくれた。正直、ぼくはまだ気持ちが切りかえられていない。だが、次の練習までには前を向こうと思う。山日杯で監督やコーチ、そして、この仲間達と笑えるように…。

### 6-⑤

### 「命を育てる」

「わあ。これやりたい。」これがすべての始まりだった。私は、ぼたん祭りというかぶき公園で行われる祭りに行った。

私は、メダカすくいをした。初めてのメダカすくいだったが、9匹すくえた。楽しくなつて2回した。2回目は、11匹ぐらいすくえた。

それから毎日えさやりを続けた。簡単なことでも毎日続けるのが大変だ。それから数日経つある日、メダカが1匹死んでしまつた。私は「毎日気持ちを込めて育てていたのに。」とすごくショックを受けた。そ

したらお母さんが「命を育てるということは、こういうこともあるよ。これも経験だよ。」と言った。確かに人間も死んでしまうし、この経験も大切だと感じた。それからも毎日毎日えさをあげ続けた。すると、1匹のメダカに卵が付いていた。新しい命ができはじめた。私は毎日卵の観察をした。たまに、死んでしまう卵もあった。でも、これも経験。少し悲しかったけど、その分他の卵をがんばって育てた。そしたらついに生まれた。命が誕生した。とてもうれしかった。

今でも子メダカは、元気にスクスク育っている。死んでしまうメダカもいるけれど、命を飼うということはこれも大切。お母さんの言った言葉を胸にして、これからもがんばって育てる。

## 6-⑥

### 「ピアノから学んだこと」

私が今、一番力を入れていること。それは8年間習っている「ピアノ」だ。

私は、4才の時からピアノを習っている。難しい曲が多いけれど、楽譜のレベルが上がっていくことに達成感を感じる。楽譜の中には、発表会で弾くような曲もあるので、合格をもらえるように、毎日学校から帰つたら必ず練習をするように心がけている。

けれど、どんなに練習してもレッスンの前はすごく不安で、しっかり弾けるか少しゆううつな気分になってしまふ。その分、合格をもらえた時は、とてもうれしい気持ちでいっぱいになる。

発表会の時は、レッスンの何十倍も緊張する。たくさんのお客さんの前に立つだけで足がふるえて、まるで私の周りだけ、地震が起きているような感覚になってしまう。しかし、弾き出すと自然と緊張がほぐれ、いつも通りに弾けることが不思議だ。きっと、毎日の練習のおかげなんだと思う。

来年の3月には、ピアノ教室の発表会と、卒業式で演奏することが決まった。どちらの練習も今年の10月頃から始まるので、今まで以上に力を入れて練習しなければならない。先生や友達の前でピアノを弾くのは、ものすごく不安で、緊張もするけれど、きっと心に残る卒業式になることを信じて、練習をがんばりたい。